

◆第2期データヘルス計画 分析結果

【概要】

第2期データヘルス計画は、その目的を達成するため当時の医療情報・特定健診情報から課題を整理し、4つの重点施策を打ち出しました。

第3期データヘルス計画策定に向けて、前期計画の振り返りを行いました。

重点課題1：健康管理意識の向上

●目標設定

生活習慣病の医療費が高いことから、生活習慣病の予防や早期発見のため、特定健康診査や特定保健指導の受診率、終了率を向上させる。

●達成状況

・特定健康診査受診率

AI分析に基づく受診勧奨の効果もあり、令和2年度と令和3年度は40%を超えたが、目標値50%の達成には至らなかった。

・特定保健指導

令和2年度について、コロナにより集団指導を中止し個別指導のみとなったが対象者に合わせた保健指導を行った結果22.7%と上昇した。しかし、全体を通しては目標値33.5%を達成できなかった。

●分析結果

・特定健康診査

40・50歳代の受診率が低迷しているため、受診勧奨方法を検討する必要がある。

・特定保健指導

特定健診から保健指導対象者への通知を行うまで期間が空いてしまうため、本人の危機感や興味が低くなってしまうことにより実施率が低迷していると思われる。

電話や訪問による受診勧奨がマンパワーの問題から困難な状況がある。

重点課題 2：メタボリックシンドローム該当者・予備群の減少

●目標設定

特定保健指導を通じて、リスク保有者、メタボ該当者、予備群該当者を減少させる。

●達成状況

・メタボ該当者率

各年度目標値 18%を若干超える状況だが、ほぼ横ばいとなっている。

・メタボ予備群率

各年度目標値 10.5%を若干超える状況だが、ほぼ横ばいとなっている。

●分析結果

個別事業評価では、特定保健指導参加者の生活習慣（食事・運動）改善率は高い数値となったが、実施率が伸び悩んでいるため、実際のメタボ該当者・予備群率は横ばいとなっている。

特定健診受診率の向上により、早期にメタボ予備群を把握し対応することで、中長期的にメタボ該当率を下げることに繋げることができる。

重点課題 3：生活習慣病の重症化予防の強化

●目標設定

糖尿病性腎症の重症化を予防し、人工透析治療への移行を遅らせる。また、糖尿病の慢性合併症の一つである糖尿病網膜症の早期発見、早期治療に繋げるため糖尿病眼科検診の受診促進を図る。

●達成状況

・糖尿病性腎症重症化予防対象者の翌年度特定健診受診率

令和 2 年度は目標値 70%を達成できたが、その他の年度については未達成となっている。

・糖尿病眼科検診受診率

目標値 60%を各年度達成できていない。

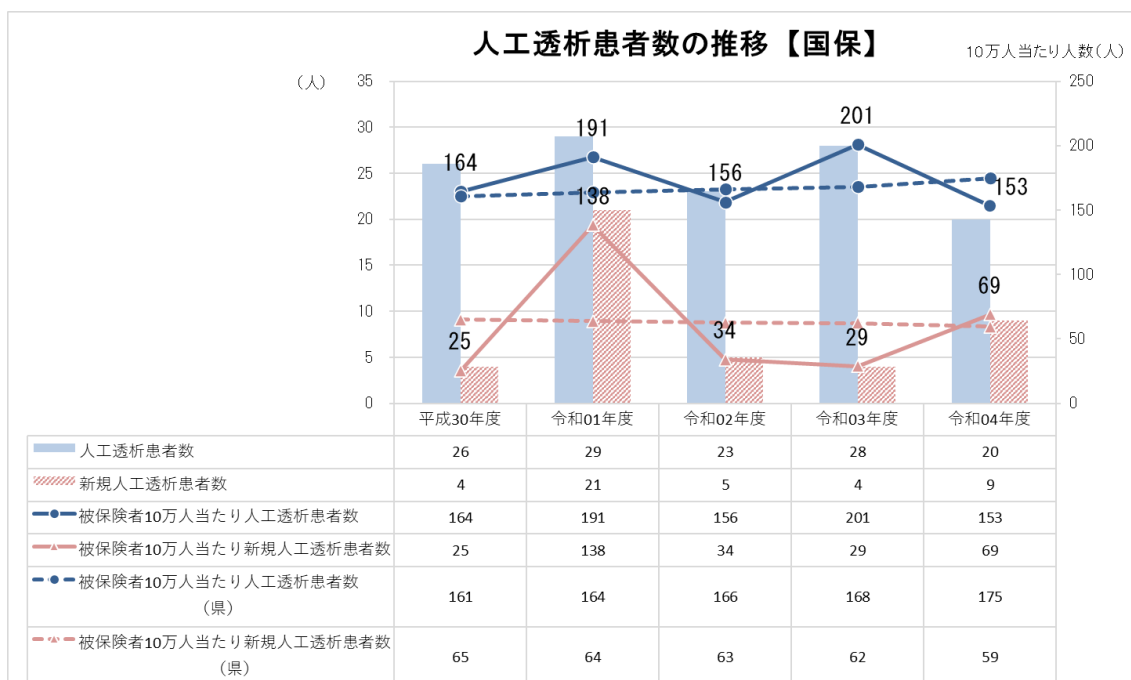
●分析結果

・糖尿病性腎症重症化予防

個別事業評価では、アウトカム指標を 4 つ設定しているが、元々の対象者が少ないため、各年度の変動が大きくなってしまふ。

令和 4 年度人工透析患者数は 20 人で、うち新規人工透析となった人数は

9人となっている。各年度通じて人工透析患者数は減少しているが、うち新規人工透析患者数の割合は減少していない。



取得元：KDB システム〔医療費分析（1）細小分類〕より

・糖尿病眼科検診

すでに病院を受診しているため、眼科検診が必要ないケースが見受けられる。

眼科検診受診者が通院へとつながっていない現状がある。

重点課題4：医療費適正化の推進

●目標設定

医療費を縮小するため、ジェネリック医薬品の利用を促す。適正受診・適正服薬への取組を行う。

●達成状況

・後発医薬品の数量シェア

令和2年度以降は目標値80%を達成できている。

●分析結果

後発医薬品差額通知書を年間3回発送しており、効果が出ている。

データヘルス計画全体の評価

保険者名 (犬山市)

(記入年月日 2023/8/17)

評価判定

- A (順調) : 計画策定時の値より改善しており、計画終了時に目標値を達成するペースのもの
- B (改善) : 計画策定時の値より改善しているが、計画終了時に目標値に達しないペースのもの
- C (悪化) : 計画策定時の値よりも悪化しているもの
- D (評価困難) : 設定した指標または把握方法が異なる等の理由により評価が困難であるもの

策定時の健康課題	策定時の目的・目標	目標		目標					評価判定	目的・目標の達成状況		今後の方向性 (個別事業の評価結果を踏まえて)
		指標	目標値	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		達成に繋がる 取組・要素	未達成に繋がる 背景・要因	
1. 健康管理意識の向上	1. 生活習慣病の予防や早期発見のため、特定健康診査や特定保健指導の受診率、終了率を向上させる。	特定健康診査受診率(%)	50	39.3	38.5	40.4	40.6	38.8	C	令和2年度に若干の改善がみられ、AI分析に基づく受診勧奨の効果ではないかと考える。	40～50歳代の受診率が低いことが大きな要因となっている。	受診勧奨の際、40～50歳代へのアプローチについて検討する必要がある。病院へ受診していない人へのアプローチが広報、HP、受診票送付などに限られている。
2. メタボリックシンドローム該当者・予備群の減少。	2. 特定保健指導を通じて、リスク保有者、メタボ該当者、予備群対象者を減少させる。	メタボ該当者率(%) ※目標値を下回ること	18	18	19.5	20.9	21.1	21.1	C		・年齢とともにメタボ該当者率(予備軍率)の割合が増えており、若い頃から適正体重維持、食生活・運動の習慣化のための啓発や環境整備等の対策が必要である。	・学校や事業所等との連携による取組み、性別や年齢を配慮した対策を検討する必要がある。 ・健診受診率の向上により、早期にメタボ該当者を把握し、対応することで、中長期的にメタボ該当率を下げることにつながる。
		メタボ予備群率(%) ※目標値を下回ること	10.5	10.5	11.1	11	11	11.1	C			
3. 生活習慣病の重症化予防の強化。	3. 糖尿病性腎症の重症化を予防し、人工透析治療への移行を遅らせる。また、糖尿病の慢性合併症の一つである糖尿病網膜症の早期発見、早期治療に繋げるため糖尿病眼科検診の受診促進を図る。	糖尿病重症化予防対象者の健診受診率(%)	70	57.5	61.8	55.9	72.7	62.9	C	保健師による対象者へのアプローチや、医療機関との連携がよいため翌年度の受診へとつながっている。		毎年行われる保健師による医師との事業に対する振り返りにより、対象者へのアプローチ方法を検討することが重要と考える。
		糖尿病眼科検診の受診率(%)	60	39.2	48.3	55.1	49.7	50	C		現在、すでに病院を受診しているため、眼科検診は必要ないケースが見受けられる。	検診対象者をレセプトと突合し現在受診中を除く必要があると思う。
4. 一人あたりの医療費が年々増加傾向にあり、ジェネリック医薬品使用割合も国基準未達成。	4. 医療費を縮小するため、ジェネリック医薬品の利用を促す。適正受診・適正服薬への取組を行う。	後発医薬品の数量シェア(%)	80	73.1	77.2	80.2	81.1	81.8	A	通知の効果として目標が達成されている。		今後も窓口での案内、通知による後発医薬品の周知をしていくことで目標達成ができると考える。

データヘルス計画最終評価 個別事業評価

保険者名 (犬山市) 作成年月日 (2023 / 8 / 17)

評価判定

- A (順 調) : 計画策定時の値より改善しており、計画終了時に目標値を達成するペースのもの
- B (改 善) : 計画策定時の値より改善しているが、計画終了時に目標値に達しないペースのもの
- C (悪 化) : 計画策定時の値よりも悪化しているもの
- D (評価困難) : 設定した指標または把握方法が異なる等の理由により評価が困難であるもの

No.	事業名	目的・対象・内容	アウトプット	指標	目標値	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	評価判定 (A~D)	成功要因 (プロセス・ストラクチャーの観点から)	未達成要因 (プロセス・ストラクチャーの観点から)	今後の事業の方向性 (判定、プロセス・ストラクチャーの観点から)	
			アウトカム												
1	特定健康診査	目的	生活習慣病の予防と早期発見	アウトプット	対象者への受診券送付率	100	100	100	100	100	100	A	令和2年度に若干の改善がみられ、AI分析に基づく受診勧奨の効果ではないかと考える。	40~50歳代の受診率が低いことが大きな要因となっている。	受診勧奨方法について見直す必要がある。(時期・回数)
		対象	40歳~74歳の国民健康保険被保険者	アウトカム											
		内容	メタボリックシンドロームに着目した検査項目での健康診査を実施する。	アウトカム	健診受診率	50	39.3	38.5	40.4	40.6	38.8	C			
2	特定健診受診	目的	特定健診受診率は愛知県と比較して高いが年々受診率が減少しているため、受診者を増やし、生活習慣病、メタボリックシンドロームの発症・重症化を予防する。	アウトプット	対象者通知実施率	100	100	100	100	100	100	A	令和2年度から事業者へ委託し、AI分析に基づく勧奨通知を行い効果がみられた。		受診勧奨方法について見直す必要がある。(時期・回数)
		対象	健診未受診者	アウトカム											
		内容	受診勧奨はがきを送付。年度内1回実施(10月)	アウトカム	受診勧奨者の受診率	25	11.9	12.2	19.8	22.4	22.5	B			
3	国保脳検診費用	目的	脳疾病の早期発見・早期治療を進め、健康意識の向上により疾病の発症・重症化を予防する。	アウトプット	申込者の受診率	80	34	41.7	66.8	68.4	83.2	A	申込者数が平成30年度で1500名程度いたのが、令和4年度は600名程度と半分以下となっている。それに対して受診者数は500名前後と変動が少ないため受診率が上昇した。	委託している医療機関での結果について郵送で結果送付となっているため、その後の精密検査や治療へのつながりが難しい。	健診者数が減っているわけではないため、受診後の結果通知方法など医療機関と検討をする必要がある。
		対象	40歳以上の国民健康保険被保険者で国保税の滞納がない人、過去4年間に助成を受けていない人	アウトカム											
		内容	対象者へ通知して応募受付、検診は総合犬山中央病院、あいせほね病院に委託し、結果通知を病院から送付。	アウトカム	要治療者の医療機関(脳関係)受診率	80	73.3	65.2	28.6	14.3	44.4	C			
4	39歳以下健康診査	目的	若い頃から健康管理を意識し健診を受けることで生活習慣病の早期発見、早期治療につなげる。	アウトプット	受診者数	280	159	194	79	110	144	C	新型コロナウイルスの影響を受け、R1年度に増加した受診者数は翌年度に半数以下に減少、徐々に回復しつつある。R4より電子申請受付開始。	実施日や健診項目、周知方法の見直しを行ってきたが、受診者数は低迷している。	個別健診も含め対象者が受診しやすい方法を検討する必要がある。また、職場で健診を受ける機会のある人が増えつつあり、対象者が減少しているため、目標値を見直す必要がある。数値改善率についても、毎年受診する人が少ないため、改善率の求め方を再度検討する必要がある。
		対象	18歳~39歳の市民のうち、健診を受ける機会のない人	アウトカム	指導率	70	68.1	51.5	54.1	57.8	69.4	B			
		内容	身体計測、問診、血圧測定、尿検査、貧血検査、肝機能検査、脂質検査、糖代謝検査、歯科健診、(希望者：骨密度チェック)	アウトカム	数値改善率	60	45.2	33.3	55.9	37.5	33.3	C			
5	がん検診	目的	がんの早期発見と早期治療を進め、健康意識の向上によりがんの発症・重症化を予防する。	アウトプット	受診率 胃がん	25	12.5	12.4	7.6	11.1	12	C	精密検査受診率の向上のために、精密検査を受診できる医療機関一覧を作成し、対象者に配布している。周知については、特定健診の受診票郵送時の説明文にがん検診の情報の掲載している。R4より電子申請受付開始。	受診率の低い女性のがんについては、実施医療機関の数も影響していると思われるので、令和4年度から江南厚生病院とさくら総合病院でも受診できるようにした。	がん検診の再勧奨の方法について、検討する必要がある。 ●現在行っている再勧奨対象者 クーポン発行者、節目健診対象者、歯科検診、緑内障検診対象者
		受診率 大腸がん	25	19.3	18.9	18.8	19.1	20	B						
		受診率 肺がん	25	21	20.2	21.3	21	21.2	B						
		受診率 子宮頸がん	25	13.9	13.3	12.4	12.9	13.7	C						
		受診率 前立腺がん	25	24.1	24.2	25	24.8	28.3	A						
		受診率 乳がん	25	18.6	18.1	18.1	19.3	20.4	B						
		精密検査の受診勧奨率	100	100	100	100	100	100	A						
精密検査受診率	90	88.1	87.1	88.5	84.3	88.7	B								
内容	①集団及び尾北医師会内委託医療機関27か所における個別受診方式で各種がん検診を実施。 ②胃がんリスク検診は事前に市民健康館にて申し込みの上、尾北医師会内委託医療機関21か所にて血液検査を実施。	アウトカム													
6	特定保健指導	目的	生活習慣病リスク者の生活習慣や健康状態の改善を図るために保健指導を実施し、健康意識の向上、生活習慣病の発症・重症化を予防する。	アウトプット	実施(完了)率	33.5	16	17	22.7	17.4	17.7	B	・新型コロナウイルス感染症の流行によりR2から集団指導を中止し、個別指導のみとした。個々の健診結果や生活背景を考慮し、目標設定までしっかりと時間をかけて面談している。また対象者に合わせた行動変容へ導く資料提供を行っている。 ・特定保健指導対象者向けの運動講座を開催し、希望者に具体的な運動指導を行っている。	・健診から通知まで期間が空いてしまうため、本人の危機感や興味が低くなってしまふ。 ・コロナ禍により訪問指導や、外出に抵抗のある方も一定数いる。 ・マンパワーの問題もあり、電話や訪問による勧奨が十分に出来ていない。	・危機感や興味をもってもらうような通知文書、チラシの工夫や、参加希望の有無回答書の未返信者へのアプローチが十分に出来ると、実施率も向上すると考える。 ・毎年対象となるリピーターも一定数いるため、保健指導実施者の資質の向上や継続支援のための展開方法の検討が必要である。
		対象	特定健診結果より階層化(動機付け支援、積極的支援)により抽出された人(高血圧、糖尿病、脂質異常症で服薬中の者を除く)	アウトカム											
		内容	グループ支援を中心に実施し、希望に応じて個別支援で対応。実施期間は通年。	アウトカム	参加者の生活習慣食事	40	33	39.3	35.5	70.4	61.8	A			
		アウトカム	参加者の生活習慣運動	40	20.5	19.7	30.3	67.9	61.8	A					
アウトカム	翌年度健診データ	40	35.2	40.7	25.8	23.3	25.4	C							

データヘルス計画最終評価 個別事業評価

保険者名 (犬山市) 作成年月日 (2023 / 8 / 17)

評価判定

- A (順調) : 計画策定時の値より改善しており、計画終了時に目標値を達成するペースのもの
- B (改善) : 計画策定時の値より改善しているが、計画終了時に目標値に達しないペースのもの
- C (悪化) : 計画策定時の値よりも悪化しているもの
- D (評価困難) : 設定した指標または把握方法が異なる等の理由により評価が困難であるもの

No.	事業名	目的・対象・内容	アウトプット	指標	目標値	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	評価判定 (A~D)	成功要因 (プロセス・ストラクチャーの観点から)	未達成要因 (プロセス・ストラクチャーの観点から)	今後の事業の方向性 (判定、プロセス・ストラクチャーの観点から)	
			アウトカム												
7	糖尿病性腎症重症化予防事業	目的	糖尿病性腎症が重症化することを防止し、新規人工透析患者の減少を目指す。	アウトプット	受診勧奨率	100	81.8	100	100	100	100	A	糖尿病未治療者への受診勧奨は、電話や通知ではなく保健師等による直接訪問により、本人や家族と面談し受診勧奨を行うことができています。	腎機能の指標となるeGFR値については血糖の他に高血圧の影響も大きく受けるため、糖尿病と併せて高血圧への対応も必要と考えられる。 ・糖尿病治療中であるが、血糖コントロールが不良者への保健指導は原則医師からの依頼がない場合は行っていません。	・糖尿病性腎症重症化予防の受診勧奨対象者の抽出については、当該年度の健診受診者が対象となるため、受診結果がデータ入力され次第、順次対象者の抽出作業を行い、滞りなく受診勧奨が行えるような体制にする必要がある。 ・糖尿病指導を実施している医療機関との情報共有により行政と医療機関における保健指導の棲み分けや行政の役割を明確化することで、当事業の内容の見直しを図ることで、最終目標である人工透析患者の減少を目指す。
		対象	特定健康診査の結果から糖尿病性腎症のリスクの高い者で、糖尿病未治療の者。	アウトカム	治療継続率	100	88.2	100	100	100	100	A			
		内容	厚生労働省の示す「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を基に犬山市独自の対象者基準を設け、糖尿病未治療者の受診勧奨・保健指導を実施する。	アウトカム	健診受診率	70	57.5	61.8	55.9	72.7	62.9	B			
				アウトカム	CKD重症度 (eGFR・尿蛋白区)	100	100	95	100	91.7	81.8	C			
アウトカム	HbA1cの維持率	95	62.5	80	88.9	91.7	64.3	B							
8	糖尿病眼科検診	目的	糖尿病の慢性合併症の一つである糖尿病網膜症は他の全身合併症により早く発症する可能性があり、かつ成人の失明原因の上位にあるため、早期発見し適切な治療をすることにより、進行を抑制し、失明を防ぐ。	アウトプット	受診率	60	39.2	48.3	55.1	49.7	50	B	現在、すでに病院を受診しているため、眼科検診は必要ないケースが見受けられる。そのような方には無理して受けていただけない。眼科検診受診者にその場で説明、指導、助言等を行っているが、実際に通院につながらない。	眼科検診受診者が治療へつながる仕組みづくりが重要である。医療機関で実際に網膜症と診断されてからのかかりつけ医としても役割をどのように位置づけるかを考える必要がある。	
		対象	前年度特定健診受診者のうち、空腹時血糖126mg/dl以上、またはHbA1c7.0以上で治療をしていない人	アウトカム	眼科受診率	90	75	77.8	68.8	75	66.7	C			
		内容	問診、検査 (視力検査、精密眼底検査、眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査 (前眼部及び鞏膜部))												
9	医薬品使用促進	目的	後発医薬品 (ジェネリック) の普及率を向上させ、医療費の抑制につなげる。	アウトプット	対象者通知率	100	100	100	100	100	100	A	通知の効果として目標が達成されている。	今後も窓口での案内、通知による後発医薬品の周知をしていくことで目標達成できると考える。	
		対象	後発医薬品 (ジェネリック) への切替により500円以上差額があり、かつ40歳以上の被保険者。	アウトカム	数量シェア	80	73.1	77.2	80.2	81.1	81.8	A			
		内容	個別通知書を送付。通知予定数は約400人												
10	健康マイレージ事業	目的	第2次いぬやま健康プラン21計画に基づき、市民がそれぞれの年代においてできる健康づくりを自ら積極的に取り組み、生涯にわたり自分らしい生活を送ることができる	アウトプット	参加者数	320	380	515	134	168	198	C	・R2よりポイントを貯める方法として健康への取組の継続が必要となっている。 また、応募用のポイントシートには、カレンダー形式の記録表に健康づくりの記録ができ、自然と健康づくりの習慣化につながっていると考えられる。 ・応募方法として、窓口の他、郵送、FAX、メールを追加した。	チャレンジポイントシートは基本公共施設の窓口等に取りにいかないといけないため、手間となってしまっている。	応募方法を従来の方法に加え、電子申請を追加することで若い世代も応募しやすいようにした。 また、チャレンジポイントシートを窓口での配布だけでなく、広報特集号や、成人事業のチラシにも掲載し、手にとりやすく、手間を減らすように工夫し参加者の増加を目指す。
		対象	18歳以上の市民	アウトカム	健康づくりの習慣化の割合	100	-	-	95	60	100	A			
		内容	必須項目：市や会社で実施されている健康診断や各種がん検診等の受診 選択項目：健康づくりに関連した講座等への参加、健康への取組みを実施し、50ポイント集めると、県内の協力店舗で割引サービス等を受けることが出来るカード「まいか」と交換。さらに平成28年度より抽選で賞品を進呈。	アウトカム	59歳以下の参加率	45	42.9	52	38	32.7	32.3	C			